

感銘を受けたナルックス(株)工場見学と社長談話

第4回社長懇話会記録

工場見学

昨年3月に発足したATACの好評行事「社長懇話会」は予定通り順調に回を重ね、

一周年を迎える第4回は平成16年3月23日、従来と趣向を変えて午後1時30分開会とし、21名の中小企業社長および経営者にATAC関係者を加えて充実した社長懇話会になりました。



全員たかつき京都ホテルに集合し、簡単な自己紹介の後、バスでナルックス(株)山崎工場へ移動し、ビデオで企業の内容を頭に入れた後、約1時間最先端技術に触れる意義深い工場見学を体験することができました。

工場見学後ホテルにもどり、ナルックス(株)を一流企業に育て上げた若い北川清一郎社長から会社の現状や経営方針、今後の計画等について、熱意を込めて語っていただきました。(北川社長のお話(要約))

1. 経営方針

私は1976年に大学の機械科を卒業して、祖父が創業したこの会社に入社し、現在3代目の社長です。経営のビジョンはナノテク加工を目指しており、いずれはボトムアップ型のナノテクを目指すのが、現在はトップダウン型のナノテクを追っている段階です。

当社の経営のコアになるプロセスは光とナノメートルの精度を追求することに集中しています。一方、それに必要なマネジメントのプロセスにはITを活用し、特にキャッシュフローはリアルタイムに近い状況での管理を目指しています。この二つの方針で経営し、現在60億円の売上を5年後100億円にする計画です。そのために現在モジュール生産も考えており、これは現在ATACに協力をお願いしています。

また、このような経営を進めるには特許が大切で毎年平均20件の特許を出願しています。

2. 海外ビジネス

海外との取引は1996年ごろからインターネットメールでビジネスを始め、次第に拡大し、アメリカのアラバマ州に営業所を設けています。中国へは毎日のように社員が出張しています。西華大学出身のドクターが外資系の会社の技術の中核に入って当社へ打ち合わせに来るケースが増えていますが、彼らはいずれ中国系の会社を作るストーリーがあると思われるので、対応に苦慮しています。

3. 人材問題

経営で一番悩んでいるのは人の問題です。採用面では、一昨年からリクナビ(リクルート ナビ)を採用しています。何回も会社説明会を行い、費用はかかるが、今までより1~2ランクもレベルの高い人が採用できるので喜んでます。その代わりに上司の指導力の問題が出てきて、管理者の大切さを身に沁みて感じています。

技術者は内部でこつこつ育ててきましたが、一昨年大手光学メーカーから折角育てた光学設計技術者を引き抜かれたことがあります。日本のトップメーカーなら、自社で育ててほしいと言いたいところです。

4. 開発と資金

製品開発は産官学の連携で積極的に取り組んでいます。

地元の阪大や府大とは共同研究を行っており、光学設計ではアリゾナ大学にご指導いただいています。開発のマネジメントでは資金の循環が重要な課題です。ここ数年は自己資金で賄っていますが、節目には大きな設備投資も必要で、できるだけ自己資金で計画しますが、必要なときは主に政府系の金融機関を利用しています。科学技術振興機構の開発委託金や補助金も積極的に利用しており、開発に成功して、利益の中から返済しているテーマが2件あります。

5. 我が社の経営指針

我が社は175名が社員で残りは派遣社員やパート等で補充し人件費を変動費化していますが、そのため中には顔も心も能力も分からない人が大勢います。火災や防犯の危険は社員より高いと考え、今期の経営指針として、火災の対策を徹底すると、夜間の防災訓練をやるようとしています。

我が社はこれからもさらに光学部品を極めていきたいと考えていますが、最近量子光学など新しい光学系ができてきます。それに対応する先の商品のロードマップができるような指針を今作っています。それに呼応するため、金型の精度アップとか設計のレベルアップを考えるとともに、生産環境の安定性を考えています。

現在、工場は±1.5°Cですが、さらに精度を上げないと商品の良品率が上がらないので、工程能力の向上を目指した環境作りが必要で、安全・安心・品質・納期・コストの順番で、重点指針としています。

最後にATACにはモジュール化商品について指導してもらっていることを報告しておきます。



(質疑応答)

北川社長の苦労話を含めた多岐に亙る体験談は参加者一同に深い感銘を与えましたが、質疑応答の時間では人材に関して、採用・給与・引き抜き・育成の問題に多くの質問が出されました。更にIT化の進め方についての質問、特許問題では褒賞制度について活発な意見交換が行われ、広範囲な経営上の問題について北川社長からありのままの経験を披露され、意義深い懇話会を終了しました。

(懇親会)

引き続き5時過ぎから立食パーティーに移り、北川社長も参加されて杯を片手の歓談や名刺交換などごやかな懇親の時を過ごし、好評を博した社長懇話会の行事をすべて予定通り終了して、定刻7時に解散しました。(田頭記)

